

第3回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 誤答としては **a** が多かったが、‘~ is one thing; ... is another’ (～と…は別ものである) という表現を知っていたかが問われた。

問題B

Part 1 (1) ~ (2) は比較的よくできている。

(4) は **foods** と書いている受験生もいたが、**food** は不可算名詞で、複数の種類を念頭において言う場合以外は **s** をつけない。

Part 2 今回はスペルミスや、単語の抜けや単語の誤りなどは一律、配点分の減点とした。

(ア) では **there are** はできているものの、**kind** を複数形にできていなかったり、**communication** を複数形で書いてしまったりしたものなどが見られた。

(イ) でも **a number of** の **a** が抜けたもの、あるいは **a number of** ができているのに、**technology** を複数形にできていないものなどのミスが多かった。ディクテーションでは一般的に **a, of, the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) **ウ**から始められなかった解答が目立つ。また、**ウ**のあとに**オ** (**specialized**) の方を選んでしまったものも多かった。どの過去分詞を **kept** の補語にするかは文脈の理解が不可欠。

(2) は比較的よくできているが、**only** を入れる位置を誤ると文脈がつながらなくなってしまった。

(3) (4) もよくできていた。

(5) の誤答では **had been known about Leonard's work** (**ウ** → **イ** → **エ** → **ア** → **オ** → **カ**) というものが大変多い。**if** の省略で疑問文の語順になるということまでは理解できていたが、疑問文の形について「助動詞を含む文は助動詞を文頭に出して疑問文を作る」という点について理解がややふやだったということになる。

問題B 和文英訳

タイムカプセルを掘り出すにあたっての語り手の心情をテーマにした出題。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

㉑「思い出す」: **remind** は「人に～を思い出させる」なので、ここで **I** を主語にしては使えない。

「胸をおどらせていた」: **be interested in** や **be happy about** ではこの意味合いには少し弱い。「わくわくしていた」ということなので **be excited about** [**by**; **at**; **over**] に思い至りたかった。**look forward to** (= **to be excited and pleased about something that is going to happen** (LDCE)) を用いたものは許容とした。

㉒「…だろうと思いました」: **I thought there were few people** は、時制について注意深くなりたいたい。「悪天候」: ここでは特定の日の天候を言うので **the** をつけて使うことに注意しよう。「歓声」: **cheer** は思いつかなかったと思うが「喜びの声」と考えて **cries** [**shouts**] **of joy** と工夫して訳せば合格。「裏切られた」では **betray** を使った直訳では通じないが、そのような訳は少なかった。「予想」: **prediction** :

supposition ; anticipation など許容。

◎「虫捕り」の動詞には capture ; collect も使える。hunt はもっと大きな動物を「狩る」という意味なので不適當。「虫」には insect のほか、bug も使える。worm は「毛虫 ; 芋虫」を指し、意味がせまくなるのでここでは使えない。「歯が立たない」(= 打ちまかせられない) では beat のほか、defeat も使える。「～となると」には最適の定形表現 when it comes to ～があることをここで確認しておきたい。このイディオムを使わない場合は Ryota was much better at catching insects than me などとも表現できる。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(33語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

解答・別解では「60歳になったら～返納する」ことも記述内容に含めて全体としてひとつの主張になるようにまとめる形にしているが、今回の試験の答案としては「その意見に賛成 [反対] という書き方のものも許容した。また、文字通り「賛成 [反対] だ」と述べていなくても「返納する必要はないと思う」だけでも反対の意志が読み取れるので許容とし、また「60歳」という年齢に注目し「60歳での返納は早すぎるので反対だ。70歳であれば妥当だと思う」など、条件付きで反対しているものも許容。賛成意見としては「事故を起こす危険性が高い」、反対意見としては「買い物など、生活に必要」などの理由を挙げた答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけのものや、理由をいくつか挙げただけで箇条書きに近いものは主張の説得力に欠けてしまうので気をつけよう。

4 長文読解

「選択」をテーマにしたエッセイ。やや抽象的な箇所もあり読みづらさを感じたかもしれないが、著者の体験を述べている箇所を手がかりにすれば趣旨を読み取れたのではないか。

(3) while を「…であるのに [である一方]」という‘対照’を表す接続詞で訳すべきところ、「…の間」と訳しているものが多かった。we may not always have … と後ろの we always have … が手がかかりとなった。have control over ～ の control を「操作する」と訳したものが多かった。また among はここでは「(選択肢の) 中から [中で]」と訳すほうがより自然だろう。may を訳出していない答案も多く見られたが、ここでの may は‘推量’を表し文意からも訳出は必要だろう。

(4) 空所 B について、文脈の読み解きと熟語の知識を問う問題であった。正解の b を挙げられた受験生は少なかった。選択肢 a を選んだ解答も多くあったが、come by (手に入れる) は正反対の意味なので注意しよう。

(5) 第1段落で述べられた内容と第2段落以降の内容のつながりに戸惑いを感じたかもしれない。エッセイでは論説文より段落の展開がわかりづらいかもかもしれないが、先へ読み進めていくことも大切。

5 長文読解

極地よりも低緯度のほうが生物の多様性が高くなるという、生物の多様性をめぐる諸説が述べられた文章。

(1) 解答箇所を見つけられているものの、単語の訳し方などの誤りが見られる答案も少なくなった。life は多義語だが、ここでは「生命」ではなく「生物」が適切。文末は「～こと」や「～というパターン」など体言止めでまとめていないものは減点とした。

(2) 下線部に含まれる単語自体には難しいものはなかったが、自然な日本語で訳す工夫が求められる問題であった。the case を「場合」や「例」と訳していた解答があったが、「実情、そう (いうこと)」という意味。advance はここでは「唱えられた」や「提言された」と訳した方がよい。